

Z116a 日本の電波天文学黎明期の東京天文台の電波望遠鏡とその設置場所について

亀谷收 (ISAC), 西村淳, 日江井榮二郎 (国立天文台), 御子柴廣 (元国立天文台), 富田二三彦 (元 NICT), 松尾厚

日本最初期の電波望遠鏡として、三鷹の当時の東京天文台で 1949 年に 200MHz 太陽電波望遠鏡が設置された。これを用いた本格的な太陽電波観測が 9 月より継続的に行われ、その成果がその後の太陽電波観測に引き継がれ、更に宇宙電波の観測へと発展していった。当時の幾つかあった最初期の電波望遠鏡の中で唯一廃棄されず、野辺山宇宙電波観測所で復元されて、当時の面影を良く残しているのがこの三鷹 200MHz 太陽電波望遠鏡である。2024 年度 (第 7 回) 日本天文遺産の一つに選定され、現在、国立天文台野辺山電波観測所内に見学可能な状態で設置されている。

一方、この望遠鏡が三鷹の東京天文台キャンパスのどこに設置されていたのかについては、これまで余り明確ではなかった。そこで、当時の設置状況を示す写真や資料、当時を良く知る方への取材を通して、設置場所を明確にする事ができたので報告する。合わせて、この望遠鏡の設置に向けて、当時の電気通信研究所等の研究者の並々ならぬ協力状況についても電波天文学の歴史的背景を含めて解説する。